

下都賀地区生涯学習研究会機関紙

ネットワーク

第73号
令和8年10月発行



会長あいさつ

AIが代替できないものは何だろう

下都賀地区生涯学習研究会 会長
野木町立野木中学校 校長 星 育夫

令和8年度も引き続き下都賀地区生涯学習研究会会長を仰せつかりました。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「今後10年から20年で、職業の約49%がAIやロボットに代替可能になる」というレポートが出されてから10年以上が経ちます。振り返ると、この間のAIやロボット技術の進化は目覚ましく、予想通りデータ入力や単純なルーティンワーク、大量のデータを処理する仕事などの多くは、AIや自動システムが担うようになりつつあります。

仕事だけではなく。インターネットやSNSのアプリにAI機能があるのは今や当たり前。知りたい情報は瞬時に得られ、自分のイメージするいくつかのワードを入力すれば、AIが自分に代わって文章や画像、映像を作ってくれる。困りごとや悩みをAIに相談すれば、解決策やアドバイスがもらえる。中にはAIに癒しを求めたり、恋愛感情をもったりする人もいると言う…。

生活や社会に欠かせない存在となったAIなどの利器を否定はしませんが、便利さや効率性と引き換えに、私たちは本来もっている力や身につけるべき資質、人と人とのつながりを弱めてしまうのではないかと不安を感じます。人の幸せは新たな価値やアイディアを生み出す創造性をもった多様な人々がつながり、対話と高い共感力により協働して築かれるものだと思います。変化が激しい予測困難な時代だからこそ人間力が問われる。AI任せにせず、自分たちの未来をじっくりと考えることが大切なのではないでしょうか。本会における多様な人とのつながり、様々な情報や思いの共有、学びあいがそのような場になることを期待しています。

地域と育む、5年生の米作り&販売プロジェクト

栃木市立西方小学校 教諭 飯田 麻奈

本校5年生が毎年行う田植え体験は、地域・保護者ボランティアの皆様の支えがあってこそ成り立つ活動です。子どもたちと一緒に泥だらけになりながら、温かく見守り手際よくサポートしてくださる姿は、田植え初挑戦だった私にとって、まさに救いの神のような存在でした。

これまでは収穫したお米を家庭科の授業で調理して味わっていましたが、今年度は「総合的な学習の時間」の新たな挑戦として、12月の地域祭りで販売することになりました！「自分たちが育

育てたお米が商品になるんだ！」と、子どもたちも大張り切りで準備を進めています。

学校と地域の距離が驚くほど近く、困ったときにはいつも誰かが手を差し伸べてくれるそんな温かい協力体制がある本校だからこそ、実現できる取り組みです。当日はぜひ、子どもたちのとびきりの笑顔と自慢のお米を買いに、地域祭りへお越しください！

下都賀地区生涯学習研究会員の皆様におかれましては、日々ふれあい学習の推進にご尽力されていることと思います。

さて、「ネットワーク73号」では、星会長の御挨拶、栃木市立西方小学校の地域連携の取組の紹介、壬生町教育委員会事務局生涯学習課 鈴木社会教育主事へとつながった「となりの社教主事」、社会教育主事講習を受講した「ニューフェイス」の15名の皆さんを紹介します。

新たな仲間を迎え、さらに下都賀地区の生涯学習の振興、社会教育の推進に努めていきます。これからも本会にお力添えをくださいますよう、お願いします。



シリーズ「事例から学ぶ69」

西方小水田



ズリレー「となりの社教主事61」

地域で見守り、ともに学ぶ ～「学週間」が育む温かな交流～

壬生町教育委員会事務局生涯学習課
社会教育主事 鈴木 郷平

壬生町生涯学習課では、地域住民がボランティアとして、夏休みの中学生の学習を支援する「学週間」（壬生町にあった藩校「学習館」にちなんでいます）を開催しています。今年度は町内2校の中学校で、9日間で延べ400人以上が参加しました。

ボランティアの方々は生徒一人一人の様子に合わせて声をかけ、一緒に辞書を引いたり、時には冗談を言ったりしながら親身に寄り添い、温かい学習の場をつくり出しています。ある生徒は、「ボランティアの方と話をすることができて楽しく学習することができました。」と感想を書いており、勉強を教わるだけでなく、地域の方と温かくつながる貴重な機会となっています。また、ボランティアからは、「まちで生徒に声をかけてもらえて嬉しかった。」「この事業は私の希望です。若い人たちと一緒に学べるのが嬉しいです。」との声をいただきました。

中学生と地域住民の双方が喜びを感じあえる、まさに「Win-Win」の事業です。

下都賀地区ふれあい学習推進会議の取組について

下都賀地区ふれあい学習推進会議では、下都賀管内5市町の生涯学習主管課及び公民館職員、県立学校職員や地域で子どもや若者の支援に尽力されている方等15名のふれあい学習推進委員の皆様とともに、「子どもの『結果としての居場所』づくり ～“居心地のよさ”を形にした社会教育からのアプローチ～」をテーマとして、「こどもの居場所づくり」の実践に取り組んでいます。2年目を迎えた今年度は、子どもの視点に立ち、子どもの声を反映した居場所づくりを進めるため、「こどもの居場所」に関するアンケートを実施しました。現在は、そのアンケート結果を基に、具体的な居場所づくりの実践を進めているところです。今後は、この実践を基に、令和9年2月に開催するふれあい学習ネットワークにおいて、その取組について発表する予定です。

なお、「『こどもの居場所』に関するアンケート調査結果2026」については、右の二次元コードからダウンロードできます。ぜひ御覧ください。



発行
事務局

下都賀地区生涯学習研究会
下都賀教育事務所ふれあい学習課内

TEL 0282-23-3422

E-mail shimotsuga-hureai@pref.tochigi.lg.jp



ホームページでもご覧いただけます。ふれあい学習課 情報誌・機関紙 で検索してください。